

統計情報を探す

知っている役に立つ、統計情報の基礎知識です。

統計をうまく利用するためには、その統計が“誰によって”、“いつ”、“どのように”作成されたかを知ることがポイントになります。ここでは、そのようなポイントをおさえるための基礎知識をご案内します。

1. 統計・年鑑コーナーについて

図書館本館1階の「統計・年鑑コーナー」に、各種統計資料を集めています。図書館で統計情報を調べたいときには、まずこちらの資料からご覧ください。このコーナーの本は館外貸出できませんが、コピーサービス(有料)をご利用いただけます。

2. 統計の作成者

統計は作成者によって①官庁統計、②民間統計の2種類に分類できます。それぞれの特徴をご紹介します。

統計の種類①：官庁統計

官庁統計は、国の行政機関・地方公共団体などが作成する統計です。作成方法によって調査統計、業務統計、加工統計の3種類に分けられます。

1. 調査統計

調査統計は、統計を作成することを目的として調査を実施し、その結果をまとめたものです。調査の方法によって全数調査と標本調査の2種類があります。

📄全数調査

調査対象の全てを調査するものです。全てを調査するので正確なデータが得られますが、莫大な費用と時間がかかるため、調査周期が長くなる傾向があります。

♪データは正確だが、古い場合があります。

例：工業統計調査、商業統計調査など

📄標本調査

調査対象の全てではなく、一部だけを取り出して調査するものです。一部の調査から全体を推計するため誤差を含んでいる可能性があります。調査周期は全数調査よりも短い傾向があります。

♪データは比較的新しいが、誤差を含む可能性あり。

例：生産動態統計調査、全国消費実態調査など

2. 業務統計

業務統計は、人口統計など官公庁の業務の過程で自動的に生み出されるデータです。

例：人口動態統計など

3. 加工統計

加工統計はすでに作成された官庁統計を組み合わせ、加工することにより作られるものです。

例：国民経済計算など

官庁統計の特徴

- ☑ 基本的に調査の規模が大きい。規模が大きいほど調査頻度が少なくなる傾向があります。
例：国勢調査の調査周期：10年に一度
- ☑ 品目や事象などの分類項目の設定が大まか。改訂が遅いため新しい事象にすぐには対応できません。
例：「日本標準職業分類」では“ネイリスト”は“床山”、“着付師”などと同じ分類に含まれます。
- ☑ インターネットでの公開が進んでいます。
各府省ホームページのほか、政府統計のポータルサイト「e-Stat 政府統計の総合窓口」でも公開されます。

統計の種類②：民間統計

民間統計は、業界団体や民間の調査会社などが作成する統計です。

民間統計の特徴

- ☑ 官庁統計では調査されないような、細かい品目について調査している場合があります。
- ☑ インターネット公開は官庁統計ほど進んでおらず、冊子体の資料は入手困難な場合があります。
- ☑ 統計情報に予測値が含まれている可能性があります。

- ☑ 調査対象がその団体の加盟者だけに限られている場合があります。
♪基本的に官庁統計→民間統計の順に調べます。

3. 統計書の種類

統計そのものではなく、統計が収録されている“統計書”にもいくつかの種類があります。

統計書の種類①：一次統計書

一次統計は、ある目的で行われた調査の結果がそのまま掲載されている統計資料です。要約などはされていないため、データの検索や読解に手間がかかりますが、詳細な情報を得ることができます。

♪総合統計書や要約統計書では見つからないような詳細なデータが必要な場合に使います。

例：『小売物価統計調査年報』、『全国消費実態調査報告』、『工業統計表』、『家計調査年報』など

統計書の種類②：総合統計書

総合統計書は、さまざまな分野の一次統計を一冊にまとめた資料で、期間や地域を大きくとらえた統計が収録されているのが特徴です。

♪統計を調べる際の取りかかりとして使います。

♪各分野の基礎的・全体的なデータが必要な場合に使います。

例：日本の統計⇒『日本統計年鑑』、『日本国勢図会』、『データでみる県勢』、『統計でみる市区町村のすがた』など

海外の統計⇒『世界の統計』、『世界国勢図会』など

統計書の種類③：統計要約書

統計要約書は、ある特定の分野の一次統計を1冊にまとめたもので、総合統計書より詳細な統計が収録されることが多い資料です。

♪調べたい分野が限定されている場合に使います。

♪その分野について多くの情報が必要な場合に使います。

例：『農林水産省統計表』、『労働統計要覧』、『厚生統計要覧』、『交通経済統計要覧』など

4. どんな統計があるかわからないとき

調べたいことがらについて、どんな統計があるかわからないときに使える、統計索引やインターネット情報源をご紹介します。ここでご紹介する統計索引は本館の「統計・年鑑コーナー」に所蔵があるものです。

① 統計を検索するための本

■『統計情報インデックス 2008』 日本統計協会/編集・発行、2008 (NDC^(※1):350.3 二)

業務統計や加工統計を含め主要な官庁統計・民間統計を、統計の主題からキーワード検索できます。(白書や世論調査等の統計報告書以外のもの、既刊の統計書と重複するもの、廃刊後5年以上経ったものは収録対象外)

■『白書統計索引』 日外アソシエーツ/編集・発行 3年に1回刊行(NDC:350.3 二)

国内の白書に掲載されている表やグラフなどの形で表された統計資料を、統計の主題や地域から検索できます。

■『白書の白書』 木本書店・編集部/編集・発行 毎年刊行(NDC:317.0 キ)

政府白書41冊のうち、基本的なデータ約700種を厳選して収録しています。

■『国際比較統計索引』 日外アソシエーツ/編集・発行、2010年 (NDC:350.3 二)

日本国内で刊行された国際統計に掲載されている表やグラフが国名とともに掲載されています。統計の主題からキーワード検索ができます。

※1 NDC(日本十進分類法)は資料に書かれた内容・ジャンルを数字で表す分類方法。この分類で資料を並べると、似た内容の資料を同じ書棚に集められます。図書館のどこに資料があるかを探す手がかりになります。

② 統計を検索するためのインターネット情報源

ご自宅のパソコンからインターネットを使って統計について調べられる情報源をご紹介します。

図書館本館ではインターネット用パソコンを無料で1時間までご利用いただけます(要申込)。

◆ 「e-Stat 政府統計の総合窓口」(<http://www.e-stat.go.jp/> 総務省統計局)

政府統計をワンストップで検索することができるポータルサイトです。

すべての政府統計を調べられるわけではないため、各府省のホームページの確認が必要な場合もあります。

- ◆ **総務省統計局** (<https://www.stat.go.jp/data/index.html>)
総務省統計局の統計データが掲載されています。
- ◆ **リサーチ・ナビ「統計情報」レファレンス・ガイド**
(https://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/cat2858/cat167/index.php 国立国会図書館)
国立国会図書館が作成した統計情報の案内ページです。統計検索ツールや統計数値が掲載されている統計書が分野別に紹介されています。
- ◆ **「RESAS(リーサス) 地域経済分析システム」** (<https://resas.go.jp/>)
地方創生を情報面で支援するため、経済産業省と内閣官房(まち・ひと・しごと創生本部事務局)が提供する各種データ。数値を並べた表だけでなく、地図やグラフ、様々な図表などで示されて分かりやすい上、見たい地域や時系列、項目をいろいろと変えて、分析することができます。
- ◆ **塩尻市の統計** (<http://www.city.shiojiri.lg.jp/gyosei/tokei/index.html>)
塩尻市『統計しおじり』など各種統計資料への窓口です。
- ◆ **『統計ステーションながの』** (<https://tokei.pref.nagano.lg.jp/>)
長野県の統計情報。

5.長野県の統計について調べるには

長野県、塩尻市の統計を調べるための基本的な情報源をご紹介します。

- **『統計しおじり』** 塩尻市協働企画部企画課/編
塩尻市 年刊 (N351.5/シ) 
塩尻市に関する各種統計を掲載。データは各府省から提供されたものと、塩尻市が調査したデータがあります。
- **『長野県統計書』** 長野県企画部情報統計課/編
長野県 年刊 (N351.5/ナ) 
土地、気象、人工、労働など、長野県に関する主要な統計を掲載。市町村別のデータもあります。
- **『ながの県勢要覧』** 長野県企画部情報統計課/編
長野県 年刊 (N351.1/ナ)
掲載項目は『長野県統計書』とほぼ同じ。巻頭にはカラーの統計グラフを掲載しています。